

# 渋川市こども発達相談室ニュース 2020年11月号

そもそも!!

冷え込みが徐々に厳しくなっていますが、お変わりありませんか？

**発達障害って何だろう？** ...、そんな疑問にお答えします。

発達障害は発達の仕方に凸凹がある障害です。発達障害には ASD(自閉症スペクトラム障害)、ADHD(注意欠如・多動性障害)、SLD(限局性学習障害)などのいくつかのタイプがあり、複数のタイプを併発している場合もあります。

障害というと抵抗のある方が多いかもしれませんが、環境次第で障害にも個性にもなるのが発達障害。クラスに2人以上はいると言われています。どこまでが個性で、どこからが障害か、その境目は曖昧です。その人が置かれた状況で「困ったこと」がなければ、どれほど強く発達障害の特徴があったとしても障害と捉える必要はありません。

また、どのタイプの発達障害か、はっきり区別することも困難です。障害の特徴がそれぞれ少しずつ重なり合っていることが多く、年齢や環境に応じて目立つ症状が変わってくるからです。

大切なのは「その人自身」を理解すること。その人に合った支援があれば、発達障害があっても十分に力を発揮できる可能性があり、誰もが自分らしく生きていくことができるのです。そのためには、私たち一人ひとりが関心を持って、困難を感じている人たちに気づいていく必要があります。

## 早期発見・早期支援のススメ

●心の育ちを応援してください。

苦手なことにチャレンジできるようになるには、「やってみたい」「自分にもできた」という気持ちを育み、自信や自己肯定感を高めることが大切です。たくさん褒めてあげましょう。

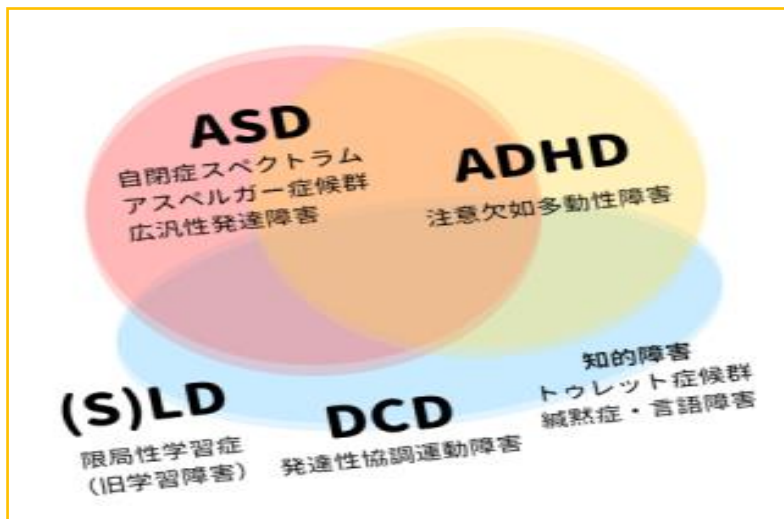
●困ったこともですか？いいえ、困っていることもです。

発達障害のこどもは努力不足でも性格が悪いのでもありません。こどもを責めても何も解決しません。

●発達障害を治したい予防することはできませんが、※二次障害は予防することができます。

発達障害の特徴の多くは通常発達でも3歳以下のこどもであればよく見られる行動ですが、一般的に良いとされている育て方や接し方ではうまくいかないことがあります。保護者の方が育児に悩んだり気になっていることがあれば是非当相談室にご相談ください。

※不登校、ひきこもり、非行、神経・精神症状、強いこだわりや感覚過敏など



## 「不登校・登校登園渋りについて」

当相談室でも不登校のご相談をお受けしています。これまで不登校について相談できる窓口がなかったせいか、発達のご相談に限らず、不登校で悩まれているご家族からのご相談が多くなってきています。右の記載にもあるように二次障害として不登校の場合もありますが、定型発達のお子さんでも不登校は他人事ではありません。

当相談室ではご本人とご家族に寄り添いながらお話をお伺いします。ご本人のペースに合わせてベストな答えが見つかるように、関係機関と連携しながら一緒に答えを見つけていきましょう。